

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,993	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,993	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 8 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	2,998	t-CO ₂	2,908	t-CO ₂	2,993	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	0.2	%		%
温室効果ガスみなし総排出量					2,511	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）					16.2	%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量								
削減率（対基準年度）				%	%	%	%	%
原単位当たりのみなし排出量								
削減率（対基準年度）					%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2024年度は2023年度の冷房シーズン（6月～9月）において比較すると平均気温が高く、また暖房シーズン（12月～2月）において比較すると平均気温が低く、特に空調機の電力使用量が前年より増加したため進捗が良くなかった。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理 エネルギー使用 量等の把握及び 管理	1) 熱源設備・空調設備等の点検、整備、検査の記録・管理 2) 獣舎・管理施設の温度管理 3) 電力・ガス・灯油の購入エネルギーの把握・記録	1) 点検項目の仕様レベルを下げずに継続して行う。 2) 計測回数を増加を図る。 3) エネルギー専門係員以外の者による記録（例：飼育員による計測、管理）	1). 2) 空調機器点検及び運転管理の委託業務点検仕様のレベルキープ。 3) キリン舎実施
省エネルギー・ 省資源の実践 冷暖房	1) 夏期にポロシャツを着用（着用可能者） 2) 会議室ファンコイルの使用制限（貼り紙） 3) 老朽化した機器の更新	1). 2) 継続して行う。 3) アセット計画に基づき進めていく。	1). 2) 継続実施 3) R6年度肉食小獣舎空調機更新完了
省エネルギー・ 省資源の実践 運転管理	1) アジアゾウ舎におけるボイラー運転に係る都市ガス消費量の削減 2) キリン舎におけるボイラー運転に係るプロパンガス消費量の削減	1) 定期的なガス消費量の把握、獣室内の温度管理を行う。 2) 飼育員によるボイラー運転温度の管理を行う。	1) 外気・獣室の温度、空調設定温度、ガスメーターを計測。 2) 外気・獣室の温度、空調機・ボイラーの運転管理。 1). 2) ともデータ・空調機器運転の経験を積上中。
省エネルギー・ 省資源の実践 照明	1) 未使用室や昼休みの消灯 2) 太陽光を利用した外灯設置 3) 獣舎・事務室等照明のLED化 4) 照明用自動点滅機の採用	1) 継続して行う。 2). 3). 4) 修繕、改修、新設時に出来る限り採用する。	1) 継続実施 2) 当年度未設置 3) 169灯設置 4) 新規施設の一部に導入。継続計画とする。
省エネルギー・ 省資源の実践 電気	1) 北園エリアの使用電力について、再生可能エネルギー100%の電力を導入する。	1) 継続して行う。	1) 継続実施

指針第 2 号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標	
	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	(2030年度)				
使用電気全体に占める非化石電気の比率	60.0 %	%	%	%	50	%		

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
その他クレジット		482 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

482	t-CO ₂
-----	-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

指針第 2 号様式

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

○令和 6 年度
東山動植物園環境教育プログラム（のべ 2 2 1 講座）で約 1 1, 6 1 5 人参加。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

定時退庁日である毎週水曜日の他、毎月 8 日は「環境保全の日」であるため定時退庁に努めるよう朝礼で訓示する。